



音戸の瀬戸公園整備計画—概要版—

■ 音戸の瀬戸公園再整備の経緯

音戸の瀬戸公園は、昭和37年の開園以来、国民宿舎・温浴施設が設置され、瀬戸内海が望める桜・ツツジの名所として親しまれていましたが、令和3年3月に温浴施設が閉店して以降、園内に休息できる場がない状況が続いていることや、既存施設の老朽化等が課題となっています。こうした状況を踏まえ、民間活力の導入による公園の再整備を行う方針とし、令和7年4月に公募により選定した宿泊・飲食施設の整備を提案する民間事業者（CCKグループ）との基本協定を締結し、呉市と同グループが連携し、公園全体の再整備を進めることとしました。

公園名称	音戸の瀬戸公園
所在地	呉市警固屋8丁目地内外
公園面積	18.7ha
設置年月日	昭和37年4月1日
公園種別	都市公園(風致公園)



■ 公園づくりの考え方

基礎調査並びに市民対象のアンケート及び多様な分野の方々へのヒアリング調査の結果を踏まえ、次の考え方に基づき公園づくりを計画します。

調査結果のまとめ

- **現在の公園の特長**
園内からの優れた眺望／季節の花の観賞／歴史的な資源／瀬戸内海に近接した立地性
- **公園の課題**
広い園内での移動手段／施設のバリアフリー化／既存施設の経年劣化／飲食施設や売店等の施設の未整備／休息できる施設やにぎわいの場の不足／滞在時間の短さや利用頻度の低さ
- **再整備における懸念事項**
利用者マナーに起因する公園環境の悪化／渋滞の発生等による道路環境の悪化／持続的なにぎわい創出に向けた管理運営／再整備後の来園者増加を想定した対策／現在の公園が持つ特長の減少／市民の交流の場の減少
- **再整備に対するニーズ**
活気のにぎわいの創出につながる活用／楽しく安全に利用できる環境整備／子育て世代が楽しめる機能の導入／園内移動手段としてのモビリティの導入／園内からの眺望を生かした環境整備／市民と観光客が交流できる場の整備／地域とのつながり（イベント等）／天候を気にせず利用できる施設の整備／海路を活用したアクセスの検討／公園全体の一体的な管理運営

公園づくりの考え方



■ 再整備のコンセプトと基本方針

自然に恵まれた園内で「くつろぎ」の時間を提供し、人や場所の「つながり」が生まれ、多世代が集まる「にぎわい」あふれる公園を目指します。

これまでのように市民に親しまれる公園として気軽に休息できるだけでなく、市民も国内外からの来園者も、誰もがゆったりと特別な体験を楽しめる、心が安らぐ、心が動く、誰もが思い思いに過ごし滞在できる庭のような場所としてリニューアルします。

コンセプト

「自然の中でくつろぎ、つながり、にぎわいあふれる公園」
日常的な休息から特別な体験まで、誰もが心やすらぎ・心うごく“滞在の庭”へ

基本方針

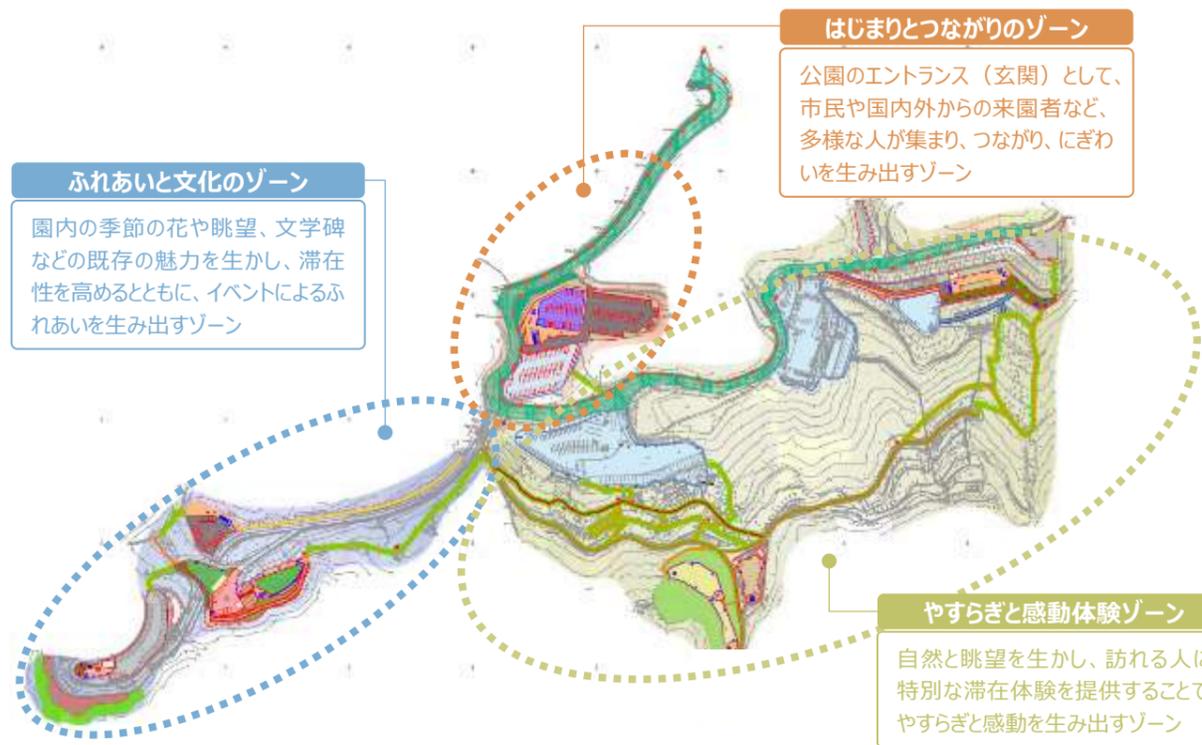
- 1.眺望や自然の魅力を生かした感動とくつろぎ空間の創出**
瀬戸内海と島々が織りなす景色、音戸の瀬戸の眺め及び季節の花を楽しめる展望スポットや散策路を充実させ、植栽の整理を行い快適な環境を整えます。
さらに、民間事業者（CCKグループ）が整備予定の宿泊施設や飲食施設との調和を意識した空間づくりを行い、来園者がくつろぎ、滞在できる公園を目指します。
- 2.多様な世代がつながり（交流）、にぎわいが生まれる空間の創出**
市民や来園者がつながることができる環境と、多様な世代が集まりにぎわいが生まれる公園を目指します。
- 3.安全で安心して利用できる公園環境の整備と園内の利便性向上**
園内のバリアフリー対策やベンチやあずまやなどの施設の改修・更新、移動用モビリティの導入により、誰もが安心して快適に利用できる環境を整えます。

■ 想定（目標）来園者数

公園のリニューアル後に目指す来園者数を20万人とし、市民や呉を訪れる国内外からの観光客が「訪れてみたい」と感じる、魅力ある公園づくりを行います。

約 **20万人**

■ ゾーニングと各エリアへの導入機能



■ 再整備に伴う経済波及効果

公園の再整備によって新たな経済活動がどれだけ生まれるかを金額で示す経済波及効果を再整備の着手から供用開始後10年間を対象として推計しました。呉市が行う公園の工事や民間事業者（CCKグループ）による施設の建設、再整備後の維持管理などにより、総額約767億円の経済波及効果が見込まれます。

経済波及効果内訳			経済波及効果
来園者の消費	初期投資	公園の維持管理費	767億円
417億円	329億円	21億円	

■ 官民連携手法の導入検討

呉市が実施する公園の再整備及び再整備後の公園の管理運営について、官民連携による効率的・効果的な事業手法を検討するため、導入手法の比較や事業者ヒアリング等を行いました。

これらの調査・検証を踏まえ、公園再整備の目的やスケジュール、再整備後の公園運営の収益性や効率性の観点から、次の手法により事業を推進・検討する方針とします。

呉市が実施する公園の再整備	呉市による設計・工事（従来方式）
売店（グリル）跡地への売店施設整備	公園施設設置許可制度
再整備後の公園の管理運営	指定管理者制度

■ 再整備スケジュール

令和8年度に実施設計に着手します。実施設計完了後は、令和11年度の供用を目指し、公園整備工事に順次着工します。



● ゾーンを構成するエリアと導入機能

ゾーン	エリア	導入機能
はじまりとつながり	北側広場	来園者駐車場 次世代モビリティポート コミュニティスペース こどもの遊び場 など
	北側駐車場	
ふれあいと文化	観光ハウス跡地	イベント広場 芝生広場 展望広場 次世代モビリティポート など
	文学碑の広場	
	売店（グリル）跡地	
	園内敷地	
やすらぎと感動体験	汐音跡地	宿泊施設・飲食施設(※) 張り出し展望デッキ 空中の散歩道(空中回廊) 散策路 ドッグラン など
	みはらし荘敷地	
	さくらの里敷地	
	ファミリーゴルフ場跡地・こども広場	
その他	高島台周辺	休憩施設(ベンチ、テーブル)、展望台の改修 など

(※)民間事業者（CCKグループ）による整備予定施設

■ 公園全体の計画イメージ（基本計画図）※導入機能・配置計画・イメージ図は、今後の実施設計及びCCKグループとの協議により変更となる可能性があります。

はじまりとつながりのゾーン

【北側広場・北側駐車場エリアのイメージ図】



- 公園のエントランスとして、多くの人が集まり、つながり、にぎわいを生み出すゾーン
- コミュニティスペースや屋内遊び場を備えた交流拠点を整備するとともに、既存の駐車場の拡張、モビリティの乗降スペース（ポート）や格納施設を配置し、公園の中心的な（核となる）役割を担います。

交流拠点に導入を計画する機能

階上	テラス
3階	交流(多目的)スペース・オープンラウンジ
2階	子ども向け遊び場・見守りラウンジ・事務室
1階	来園者駐車場・エントランス

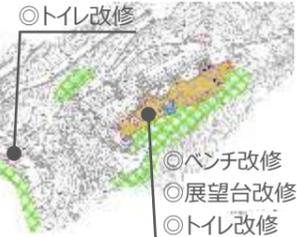


◎歩行者・小型モビリティ車両専用園路

◎モビリティポート
◎来園者駐車場

★園内敷地
★観光ハウス跡地
★文学碑の広場
◎売店施設（民間事業者誘致）
★売店（グリル）跡地
◎コミュニティ広場（芝生広場・イベントスペース・展望広場）

高鳥台エリア



- ◎トイレ改修
- ◎ベンチ改修
- ◎展望台改修
- ◎トイレ改修
- ベンチ・テーブル・展望台・トイレなどの改修・更新を行い、眺望スポットとしての魅力高め、滞在しやすい環境整備を行います。

◎張り出し展望デッキ
◎空中の散歩道（空中回廊）
◎モビリティポート

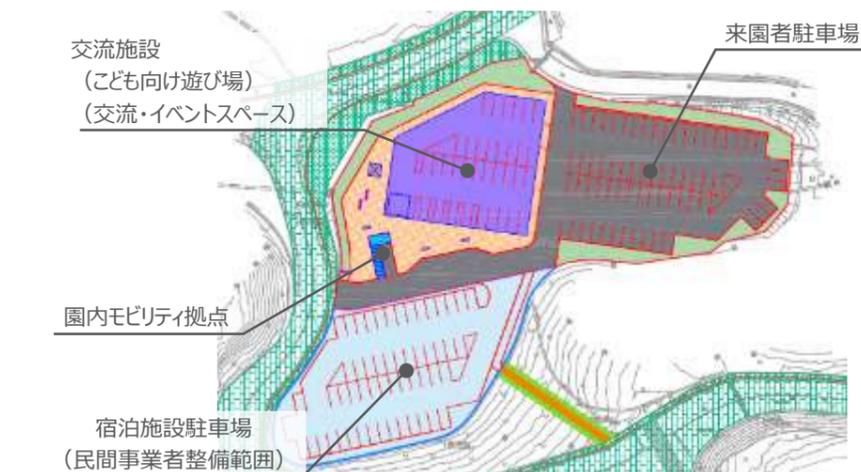
◎飲食施設（民間事業者整備）
◎宿泊施設（民間事業者整備）

◎舗装修景化
◎アプローチ照明
◎来園者駐車場
◎交流施設（子ども向け遊び場）
◎交流・イベントスペース（コミュニティスペース）
◎園内モビリティ拠点

★北側広場・北側広場駐車場
★さくらの里敷地
★みはらし荘敷地
★夕音跡地
★ファミリーゴルフ場跡地
◎ドッグラン
◎休息スペース

【北側広場・北側広場駐車場エリア】

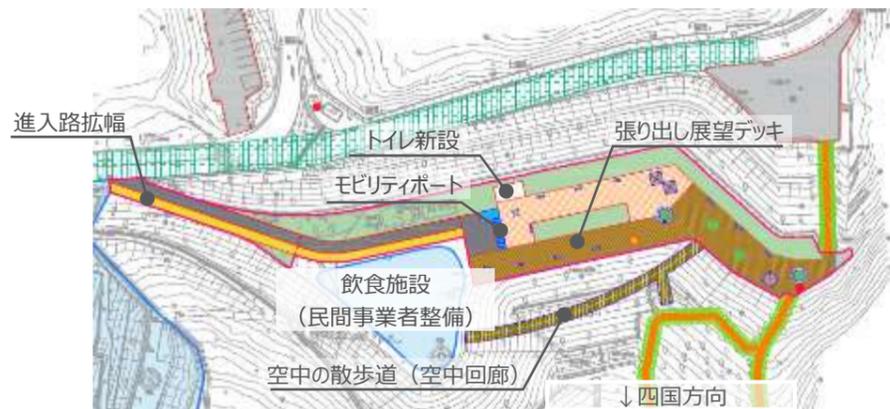
- 既存の来園者駐車場の拡張と民間事業者による宿泊者用駐車場を整備します。
- 子ども向け遊び場や市民・観光客が集い、交流することができる屋内型の交流施設を整備し、天候を気にせず楽しみ、滞在できる環境とします。
- 園内の移動手段として、次世代モビリティの導入を検討するとともに、モビリティの乗降場や充電施設を備えた園内モビリティ拠点を整備します。



※宿泊施設駐車場の配置については、実施設計においてCCKグループとの協議を踏まえて決定します。

【さくらの里敷地エリア】

- 景色を楽しめる張り出し展望デッキや空中の散歩道（空中回廊）を整備し、民間事業者により整備予定の飲食施設と合わせ、つろぎ滞在しやすい環境とします。
- 次世代モビリティの乗降や充電ができるモビリティポートを整備するほか、トイレの新設や進入路の拡張を行い、利用しやすい環境を整えます。



※飲食施設の配置については、実施設計においてCCKグループとの協議を踏まえて決定します。

ふれあいと文化のゾーン

【観光ハウス跡地・文学碑の広場エリアのイメージ図】



- 季節の花や景色を楽しみながら、気軽に立ち寄りつろぐことができるゾーン
- 芝生広場、展望広場、トイレ、モビリティポート等の整備のほか、飲食や地域の産品を購入することができる施設の設置を検討し、日常的なつろぎにぎわいを創出する役割を担います。

やすらぎと感動体験のゾーン

【さくらの里エリアのイメージ図】



- 瀬戸内の美しい景色や自然を感じながら、ゆったりとやすらぐことができるゾーン
- 民間事業者による宿泊施設や飲食施設のほか、張り出し展望デッキや空中の散歩道（空中回廊）、ドッグラン、休息スポット等を整備し、非日常的な体験を提供する役割を担います。

【売店（グリル）跡地エリア】

- 音戸の瀬戸を間近で眺めながらつろぐことができるデッキやベンチ、あずまやを設置します。
- 民間事業者の誘致を前提とした飲食物や地域の産品などを購入できる売店施設の導入を検討します。
- 既設トイレをリニューアルするとともに、エリア内の樹木の剪定・伐採により眺望環境の向上を図ります。



【観光ハウス跡地・文学碑の広場エリア】

- 来園者が花や景色を楽しめるデッキ広場やイベント時にも利用できる開閉式の屋根付き休憩施設を設置した芝生広場、キッチンカーなどの移動式店舗の出店を想定したイベントスペースのほか、新たにトイレを整備します。
- 文学碑の広場エリアには眺望が楽しめるベンチやあずまやを備えた展望広場を整備します。
- 両エリアを結ぶバリアフリースロープと観光ハウス跡地エリアに思いやり駐車場を整備します。



【高鳥台エリア】

- 眺望を妨げている樹木の伐採・剪定により、植栽環境を整え、眺望スポットとしての魅力を高めます。
- エリア内を安全に歩きやすい環境とするため、路面の改修を行います。
- ベンチ、テーブルなどの休憩施設、フェンスや展望台などの修景施設、トイレなどの既存施設の改修・更新を行い、滞在しやすい環境づくりを行います。

